

学 校 便 り

令和7年6月 第3号

家庭教育学級の話

今年度も家庭教育学級が始まりました。会のスタートに、以下のような話をしました。
あるPTA会長さんが、児童にアンケートをしました。

「どういうときに、元気がなくなりますか？」

9歳までの子どもたちの回答の1位は、

「お父さんとお母さんがけんかをしている時」でした。

お父さんとお母さんがけんかをしていると、「家族という自分の拠り所が壊れてしま
うんじゃないか」という不安に駆られて元気がなくなるというのです。

では、10歳以上の子どもたちの回答はというと、

それは「親が人の悪口を言うのを聞いた時」でした。

いつも、「人の悪口は言っちゃだめだよ」と教えてくれる親が、

「あの先生はホント駄目よね」など、周囲の大人の悪口を日常的に口にしたりしてい
ます。

「大人同士だから」と思って話していても、子どもたちはしっかり聞いているのです。

会話を聞きながら子どもは、「大人は言っていることとやっていることが違う」とシ
ョックを受けるのです。

「それが親への不信感になり、子どもたちは元気がなくなるんです」と話されていま
した。

きっと子どもたちは、「親や大人を尊敬したい」という気持ちを根源的に持っている
のではないのでしょうか。

「教育とは、生き方のタネ蒔きをすることなり」

教育者 森 信三先生の言葉より

人権の花

今年度、人権の花運動の指定校になりました。

これは、前年度、秋津小で育てられた花の種子を

今年度は、託麻南小の子どもたちが育てるものです。

そして、次年度次の学校へ種子をつないでいきます。

花を育てることで、生命の尊さや協力することの大切さ、そして花と同じように人を大
切にする心を培っていこうという運動です。きれいな花がたくさん咲くことを願って
います。

